



東京理科大学・工学部第2部 経営工学科

ひと口に経営工学科といっても、その実質的な内容はおのおのの大学においていろいろな特色がある。オペレーションズ・リサーチ(OR)に関する講義のとりいれ方についても、さまざまな様相のものがある。

東京理科大学には、野田地区の理工学部、神楽坂地区の工学部第1部および第2部の3つの学部に、それぞれ経営工学科がある。そのうち、神楽坂地区の2つの学科は、教員や設備などの面で一体運営的な面が強い。特に大学院については、両学科の教員が、まったく同等に担当している。しかし学部については、第1部と第2部とで学生がまったく別個であり、カリキュラムは、両学科で時間帯を別にしていることは当然である。ここでは、工学部第2部経営工学科のカリキュラムについて紹介する。

第2部経営工学科のカリキュラムの中で、ORに関連した課目をみると、直接的には、統計工学1、統計工学2、数理計画法1、数理計画法2がある。関連課目としては、統計数学1、統計数学2、情報数学、日程計画法、多変量解析、確率過程論がある。また、ソフトウェア工学、信頼性・保全性工学2、故障解析・診断工学などの課目の中で、ORの内容が積極的に利用されている。

すなわち、信頼性関連の課目を含めて考えると、専門科目としてのカリキュラムの1/3がOR的なものである。残りの2/3は、品質管理と情報処理がそれぞれ半々となっている。

本学科は、国電中央線、地下鉄有楽町線および東西線

の飯田橋駅から数分という交通至便な位置を占めている。また、カリキュラムの終りの時限も21h15mというあまり無理のない時間に設定している。学生食堂や生協売店なども、それを考慮して開店されている。そのためか、上記のようなORの色濃い教科を修めようとして、工学部第2部経営工学科に学ぶ学生の大半は、職をもつ勤労学生/社会人学生であり、40歳以上の高年齢者もかなり多い。また、すでに、いろいろな大学を卒業している学生も少なくない。これは、編入学制度の活用によるものである。すなわち、編入学希望者に対しては、いわゆる4年制大学卒業者については3年次編入、短大卒業生については2年次編入を原則としている。英語と数学(文科系の卒業生については英語だけ)の2科目の筆記試験および面接等によって入学を許可している。

もちろん、東京物理学校以来の伝統を守り、進級、卒業研究開始、および卒業についてのきびしい関門は、編入学生といえども例外にはならない。しかし、学窓を出ていったん社会に入り、多種多様の人生経験を得て、自分自身の固い決意と高い問題意識を体得して編入学してくる学生諸君のほとんどは、学習態度、学業成績、日常行動のすべてにおいて範とするに足る人たちが多く、目が輝き、発言も力強く、視野も広い。OR的センスの体得への意欲も強固である。われわれ教員側としても、こういった社会人学生の増大を切望しているものである。

(菅野 文友)

日本工業大学・システム工学科

昭和50年4月、日本工業大学(埼玉県宮代町)にシステム工学科(入学定員80名)が機械工学科、電気工学科、建築学科につづいて第4番目の学科として設立された。当時、日本にはシステム工学科と称する学科は神戸大学に存在するのみであった。

システム工学という学問体系がその定義すら定まらな

い時代であったが、既存の学問にとらわれることなく、工学全般の見地から情報処理などに関する科学技術を研究する幅広い学問分野と規定して教育、研究がはじめられた。今日の社会は経済の規模が急速に大きくなるにつれ、加速度的に複雑多様化の様相を呈してきた。このような社会において能率的かつ合理的にその機能を発揮す